

令和4年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査」の結果について（詳細）

令和4年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」の概要

1 調査方式

無記名式のインターネット方式

2 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害児・者の基本情報（障害の種類、障害者手帳の保有状況など）
- ・運動・スポーツの実施状況（実施種目、頻度、施設、目的など）
- ・運動・スポーツの実施における障害
- ・今後行いたいと思う運動・スポーツ
- ・スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・過去1年間のスポーツ観戦

3 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とし

- ・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は5,549人であった。兄弟、姉妹、第4子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人及び同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の総数は7,093人であった。

4 調査期間

令和4年12月5日（月）～令和4年12月12日（月）

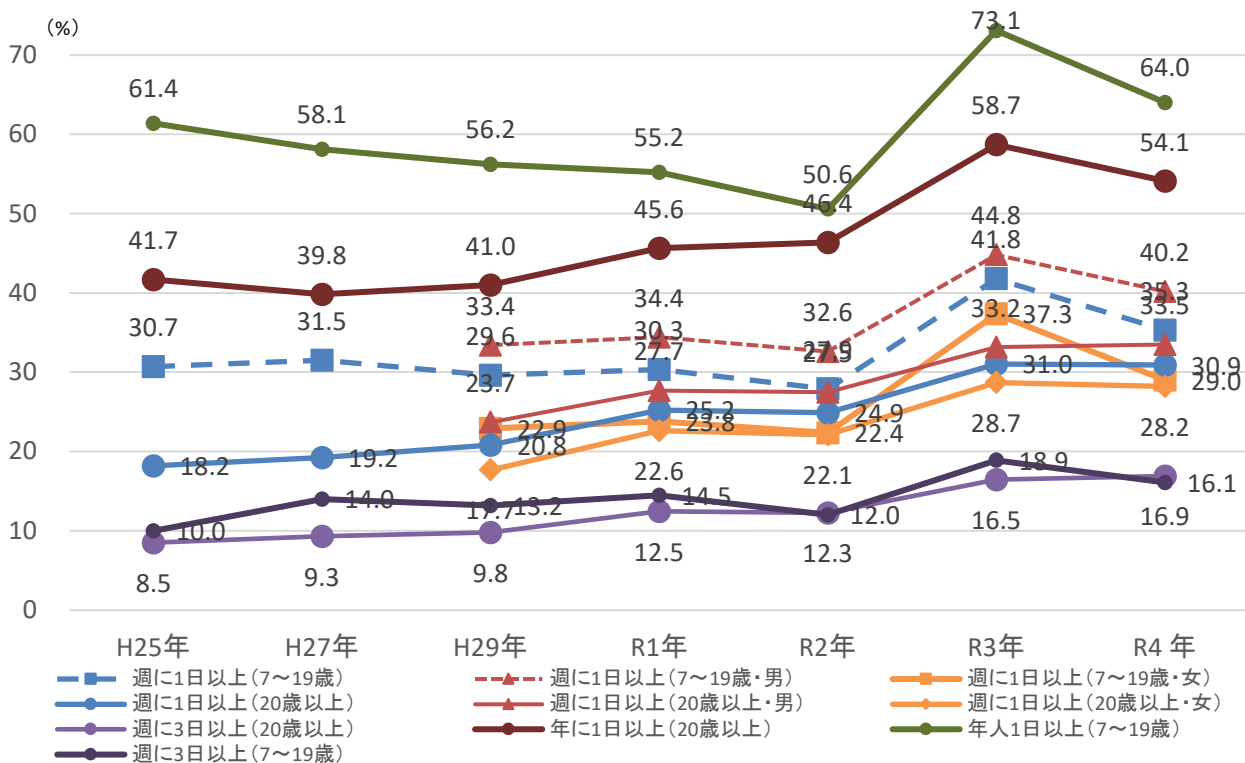
5 回答者内訳

				[N=7,093]				
性別	男性	4476	63.1%	障害児発生年齢	0歳	1252	17.7%	
	女性	2594	36.6%		1～6歳	887	12.5%	
	その他	23	0.3%		7～12歳	547	7.7%	
年齢	7～12歳	391	5.5%		13～19歳	495	7.0%	
	13～19歳	492	6.9%		20～29歳	667	9.4%	
	20～29歳	734	10.3%		30～39歳	623	8.8%	
	30～39歳	827	11.7%		40～49歳	763	10.8%	
	40～49歳	1097	15.5%		50～64歳	966	13.6%	
	50～64歳	1851	26.1%		65～74歳	471	6.6%	
	65～74歳	850	12.0%		75歳以上	422	5.9%	
	75歳以上	851	12.0%		障害者手帳	身体障害者手帳 1級	607	8.6%
	障害種別	肢体不自由(車椅子必要)	635			9.0%	身体障害者手帳 2級	468
肢体不自由(車椅子不要)		2177	30.7%			身体障害者手帳 3級	406	5.7%
視覚障害		516	7.3%	身体障害者手帳 4級		366	5.2%	
聴覚障害		585	8.2%	身体障害者手帳 5級		177	2.5%	
音声・言語・そしゃく 機能障害		337	4.8%	身体障害者手帳 6級		179	2.5%	
内部障害		577	8.1%	療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) マルA・A(最重度・重度)		201	2.8%	
知的障害		627	8.8%	療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) B・C(中度・軽度)		340	4.8%	
発達障害		951	13.4%	療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) その他		53	0.7%	
精神障害		1681	23.7%	精神障害者保健福祉手帳 1級		95	1.3%	
その他		40	0.6%	精神障害者保健福祉手帳 2級		607	8.6%	
福祉サービスの利用状況		通所型	1335	18.8%		精神障害者保健福祉手帳 3級	475	6.7%
		入所型	334	4.7%		障害者手帳は持っていない	3307	46.6%
		訪問型	466	6.6%				
	その他	61	0.9%					
	上記のサービスは利用していない	5127	72.3%					

※の各項目は複数回答であるため、合計は一致しない。

1-1 障害者の運動・スポーツの実施率について

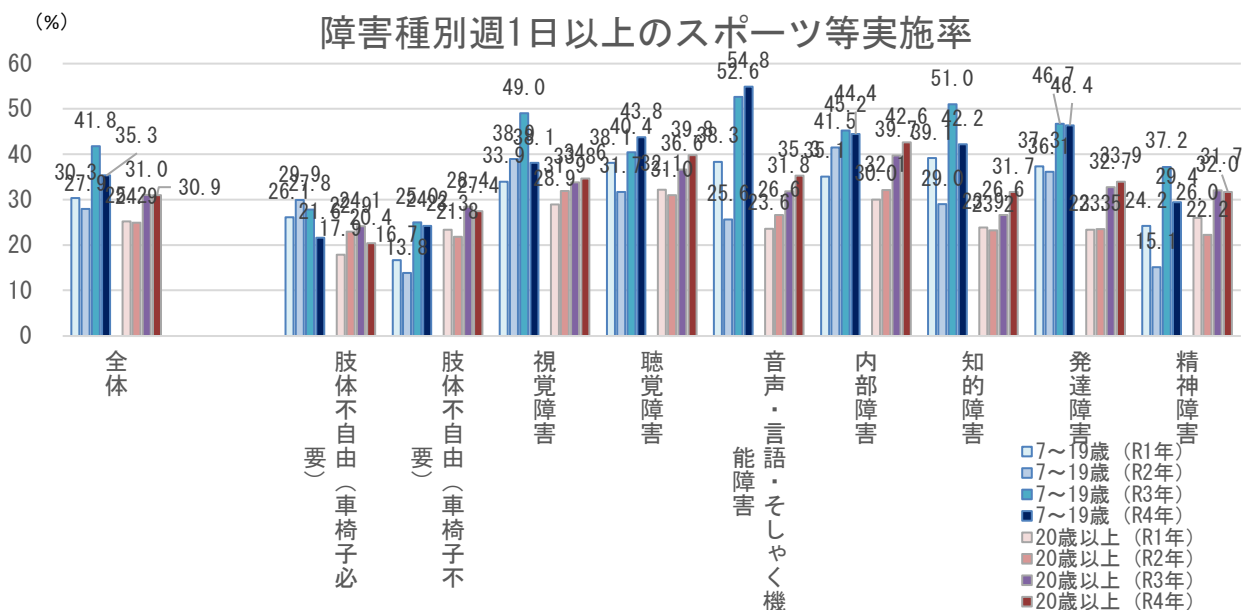
過去1年間に運動・スポーツを行った日数について、7～19歳と20歳以上に分けて集計した。7～19歳では週1日以上の実施者が合計35.3%であった。20歳以上では、週1日以上の実施者が合計30.9%である。経年で比較すると、全体的に前年度よりも実施率は低下しているが、令和元年以前と比較すると増加傾向にある。



※「年に1回以上」には、過去1年間に何らかの運動しているが実施回数が「分からない」者を含む。

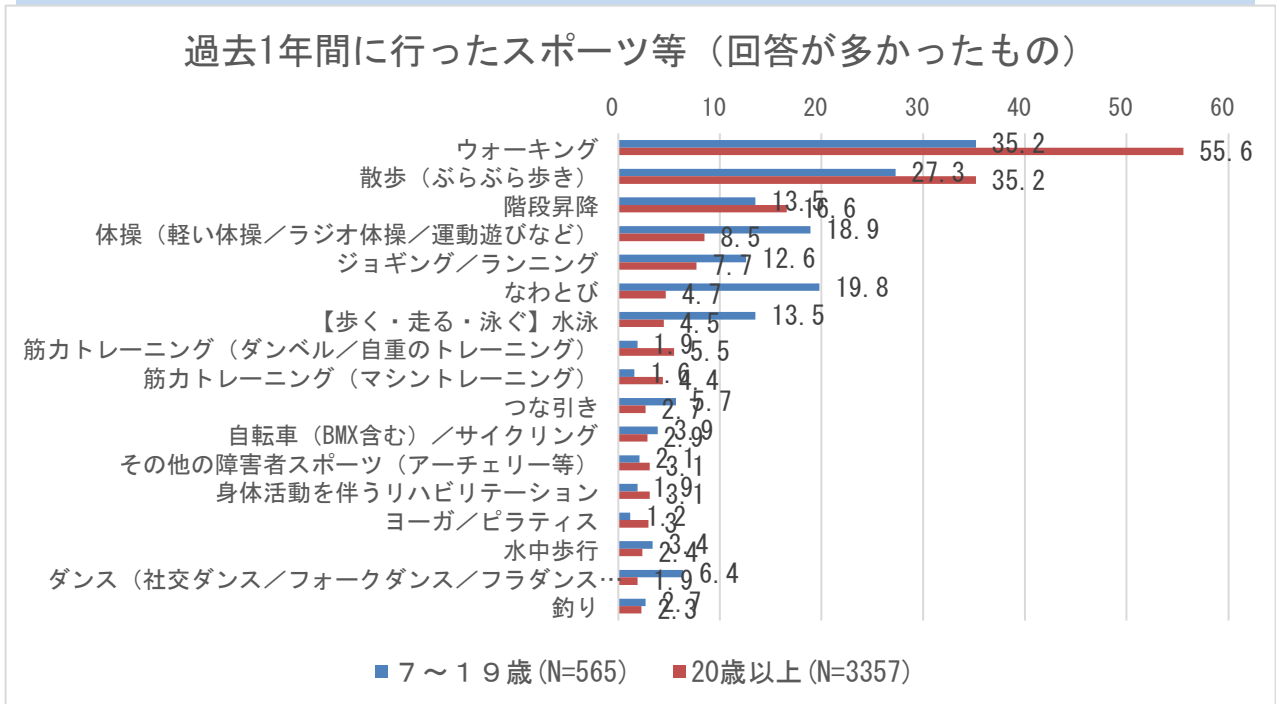
1-2 障害種別週1回以上の運動・スポーツ実施率

障害種別でみると、視覚障害、聴覚障害、音声・言語・そしゃく障害、内部障害、知的障害、発達障害は令和元年度以前よりも週1日以上の実施割合が増加傾向にある。肢体不自由(車椅子必要)では20歳以上・7～19歳ともに週1日以上の実施率が2割～3割程度にとどまっている。



1-3. この1年間に実施した運動・スポーツと実施した場所

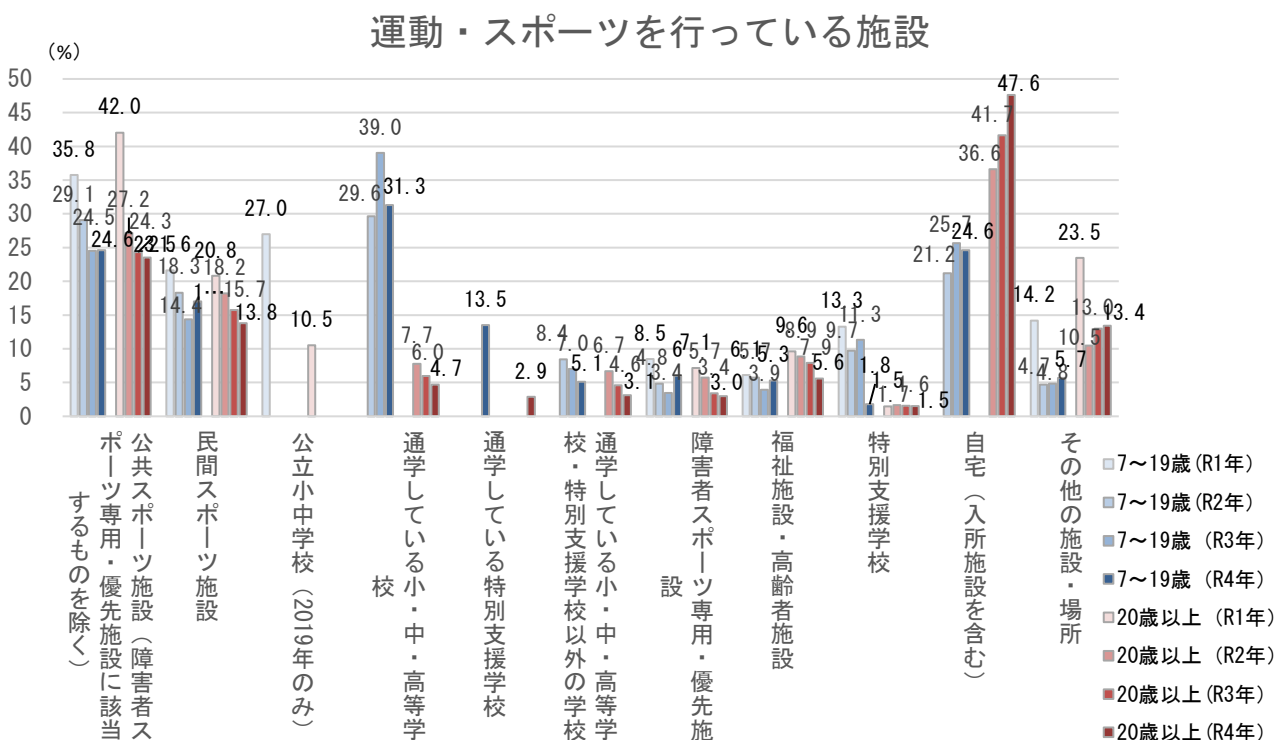
過去1年間に運動・スポーツを「行った」と回答した人が、どのような運動・スポーツを行ったかについて、上位種目をまとめた。「ウォーキング」の割合が最も高く、「散歩(ぶらぶら歩き)」も実施率が高かった



その他の障害者スポーツ(アーチェリー/フライングディスク/ボウリング/バドミントン/乗馬/カヌー/自転車競技/射撃/柔道/セーリング/テコンドー/トライアスロン/馬術/バドミントン/ボート/アイスホッケー/車いすカーリング/バイアスロン/パワーリフティング/スノーボード/チェアスキー・バイスキー/シットスキー 等)

1-4. 運動・スポーツを行っている施設

運動・スポーツを行っている施設については、今年度の7～19歳では「通学している小・中・高等学校」が31.3%、次いで「自宅(入所施設を含む)」と「公共スポーツ施設」が24.6%となっている。20歳以上では「自宅(入所施設)」が47.6%と最多となっており、「公共スポーツ施設(23.5%)」「民間スポーツ施設(13.8%)」と続く。前年度と比較すると、7～19歳では、「通学している小・中・高等学校」で約8ポイント回答割合が減少している。20歳以上では、「自宅(入所施設を含む)」で前年度より約6ポイント上がり、その代わりにほかの施設の回答割合が「特別支援学校」「その他の施設・場所」を除き減少している。



2 運動・スポーツに対する関心、スポーツ等を行うにあたっての障壁

過去1年間の運動・スポーツの実施有無別にみると、実施者の約3割が「運動・スポーツを行っており、満足している(31.0%)」と回答している。非実施者では「特に運動・スポーツに関心はない(78.1%)」の回答が約8割を占め、実施者よりも無関心層の割合が高いことがわかる。

運動・スポーツを実施する上での障壁(回答数の多かった上位10項目)
(複数回答)

(N=1,879) (N=2,358) (N=2,665) (N=2,728) (N=2,653) (N=2,559) (N=2,555)

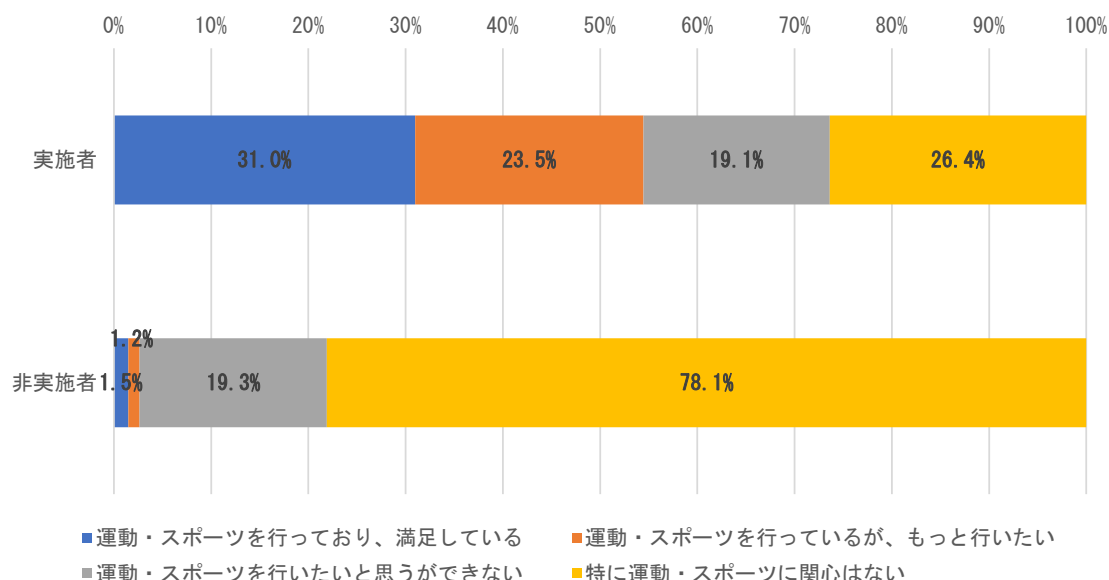
障壁となっているもの	H25	H27	H29	R1	R2	R3	R4
体力がない	26.7	23.3	20.9	18.5	13.0	25.2	25.8
金銭的な余裕がない	25.9	21.8	21.5	17.5	10.7	12.2	13.4
運動・スポーツが苦手である	7.5	7.8	6.9	6.1	4.0	10.1	11.4
やりたいと思う運動・スポーツがない	10.0	9.5	8.3	7.6	6.3	9.1	11.2
時間がない	14.5	12.6	14.2	9.2	6.0	14.7	10.8
障害に適した運動・スポーツがない	7.7	6.6	6.3	4.6	3.5	5.5	7.0
人の目が気になる	6.1	6.4	6.5	5.2	3.6	7.3	6.6
交通手段・移動手段がない	10.3	10.3	9.4	7.3	4.2	4.5	6.5
新型コロナウイルスなど感染症に対する不安						9.3	6.4
交通の便が良いところに施設がない					5.4	4.5	5.8
仲間がいない	10.5	10.0	8.8	5.7	3.9	4.7	4.9
特にない	33.1	35.2	37.7	46.2	42.6	26.2	32.3
障壁はなく、十分に活動できている					14.5	15.8	9.0

※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ

(%)

現在のスポーツ等への取組

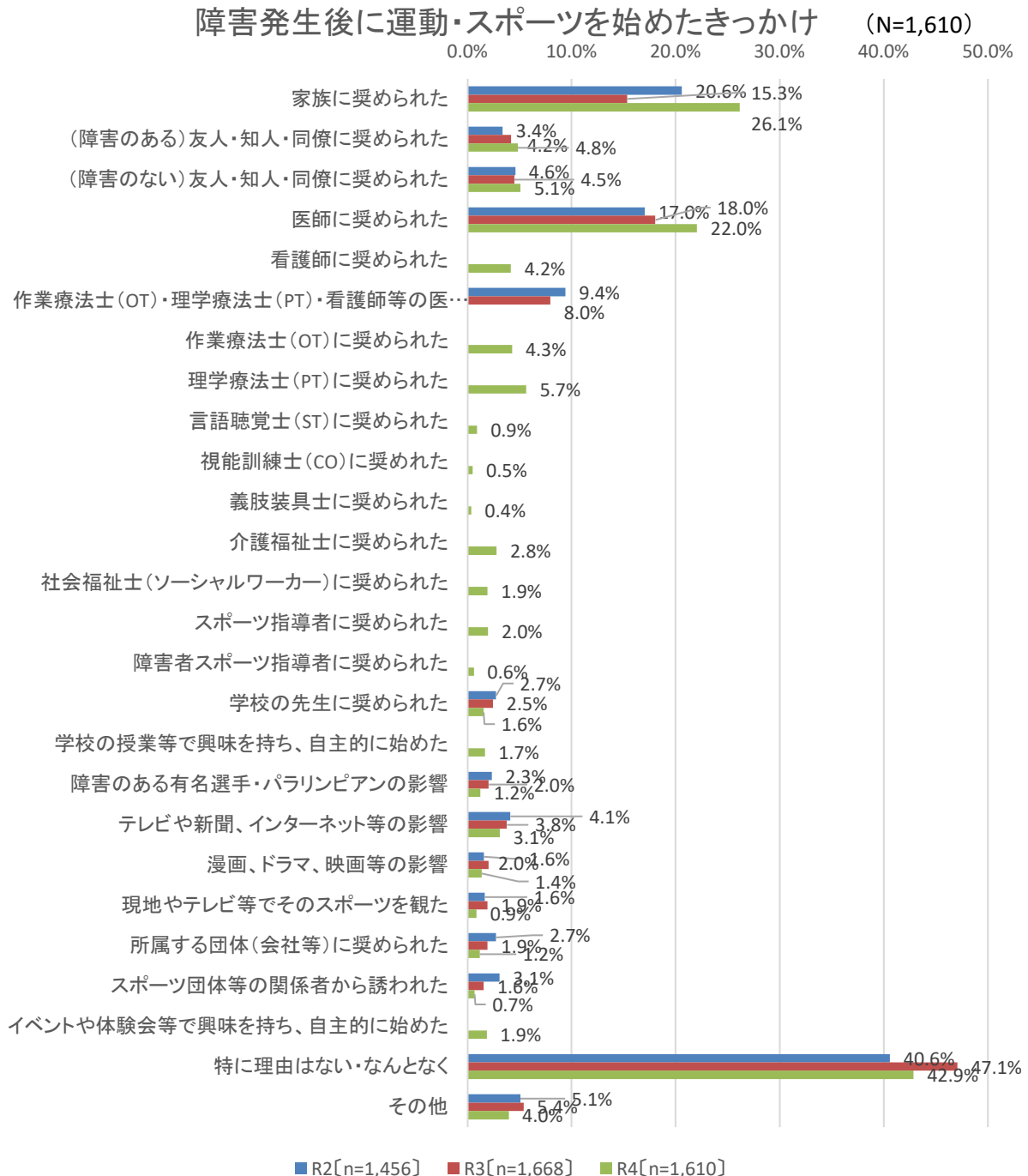
(N=2,555)



※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ

3-1. 運動・スポーツを行うきっかけ

障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけは、「特に理由はない」が42.9%と最も多く、続いて「家族に奨められた(26.1%)」、「医師に奨められた(22.0%)」と続いている。
 障害種別にみると、「家族に奨められた」と回答したのは「音声・言語・そしゃく障害(35.6%)」、「肢体不自由(車椅子必要)(33.0%)」が、他の障害種別と比して5ポイント以上高かった。
 また、「医師に勧められた」と回答した中で最も割合が高かったのは「内部障害(33.3%)」となっており、「精神障害(26.1%)」「肢体不自由(車いす不要)(25.2%)」と続く。



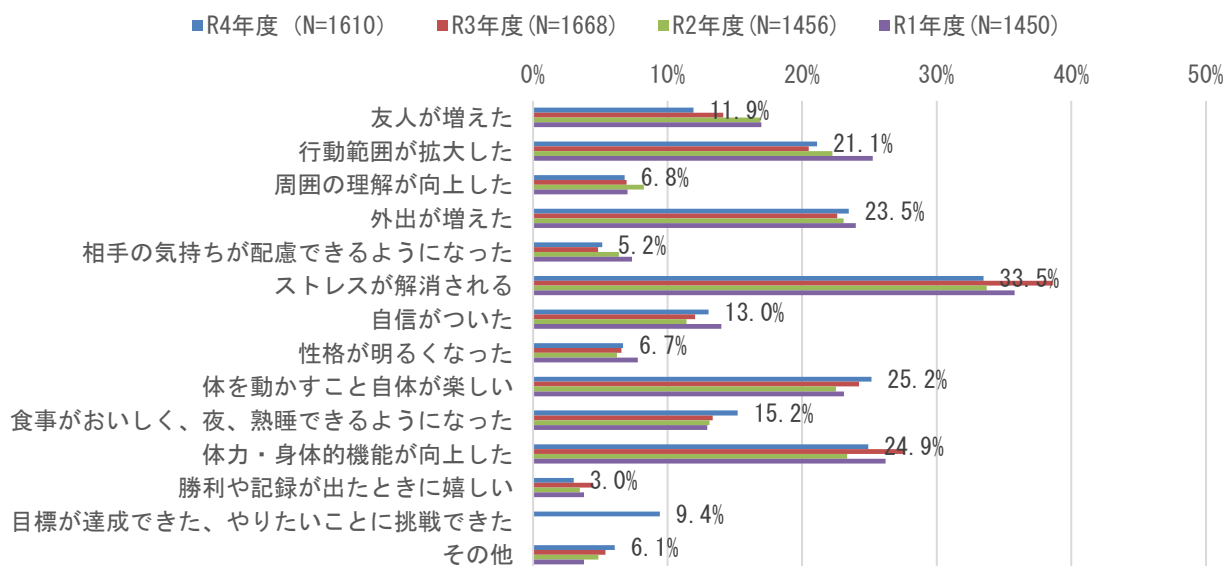
※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ

3-2. 運動・スポーツをやってよかったこと、運動・スポーツをやらない理由

運動・スポーツをやってよかったことについては、「ストレスが解消される(33.5%)」が最も多く、次いで「体を動かすこと自体が楽しい(25.2%)」、「体力・身体的機能が向上した(24.9%)」、であった。スポーツを実施しない理由を伺ったところ、「特に理由はない(50.8%)」、「わからない(24.4%)」の順に高く、スポーツそのものに無関心であることがうかがえる。その他の理由としては、「運動・スポーツに興味がない(12.3%)」が高い。

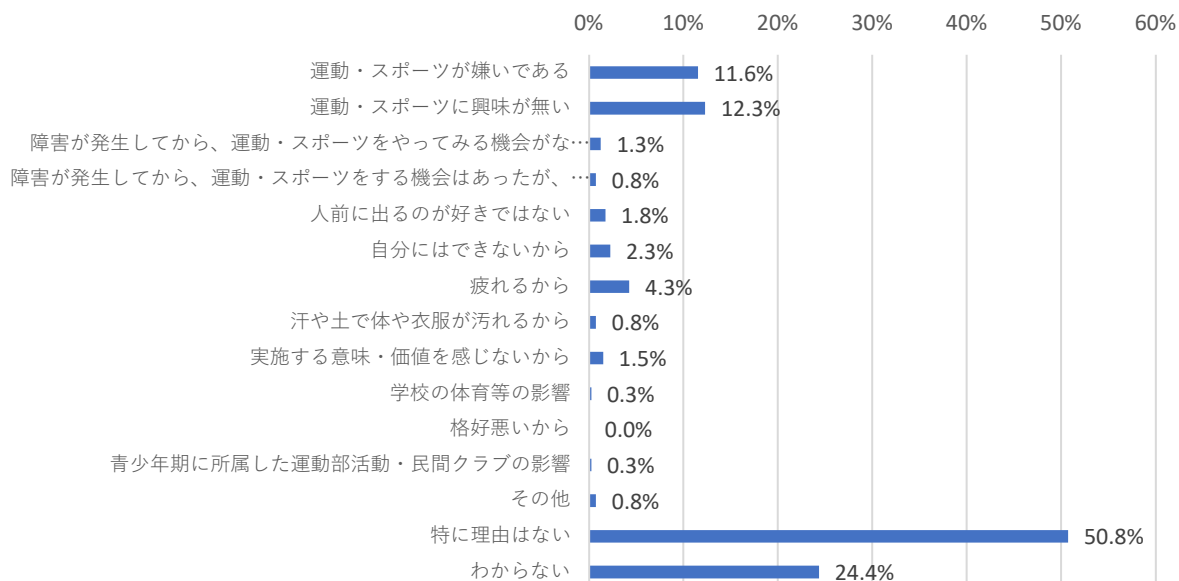
運動・スポーツを実施しない理由を前年度と比較すると、「運動・スポーツが嫌いである」「運動・スポーツに興味がない」割合は、5ポイント近く減少した。「特に理由はない」と回答した割合が前年度よりも10ポイント以上高まり、半数を超えている。

スポーツ等をやってよかったこと（複数回答） (N=1,610)



※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ

スポーツ等を実施しない理由（複数回答可） (N=1,610)

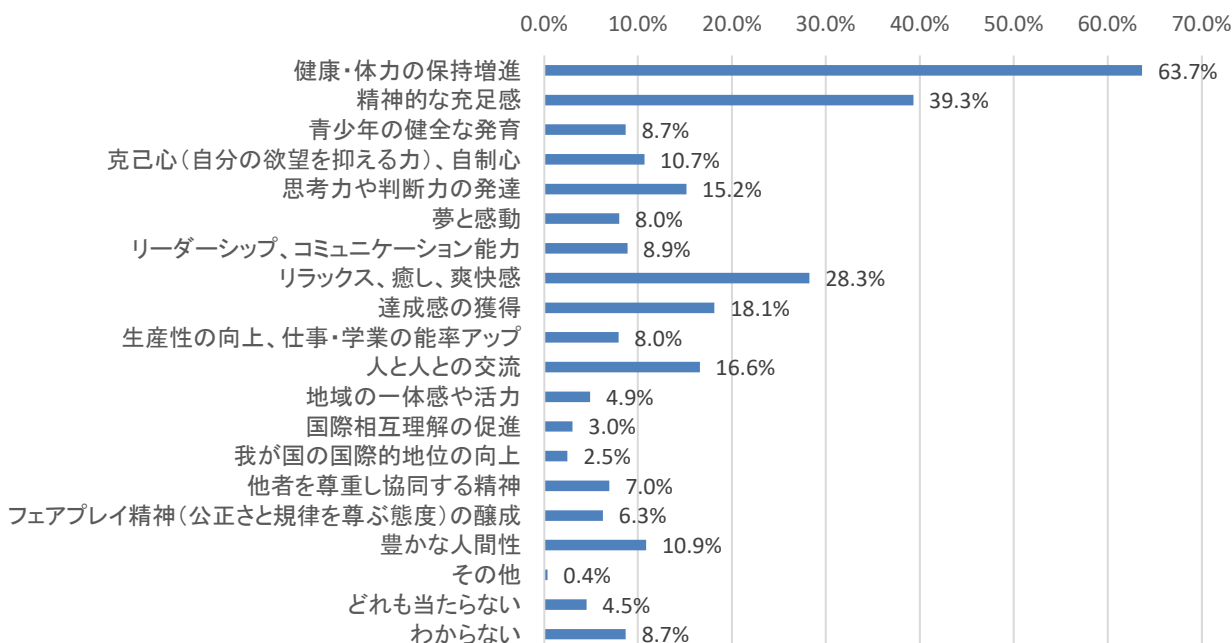


※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ

3-3. 運動・スポーツが何をもたらすと考えられるか

障害のある人にとって、運動・スポーツが何をもたらすと考えるかについてたずねると、「健康・体力の保持増進(63.7%)」が6割を超えている。次いで、「精神的な充足感(39.3%)」、「リラックス、癒し、爽快感(28.3%)」となっている

運動・スポーツが何をもたらすと考えられるもの(複数回答可)(N=1,610)



※意識に関わる設問のため、回答者本人のみ